

ふるさと歴史アラカルト

岩国の昔ばなし 1 土手町のにわとり

岩国には古い話や言い伝えが数多く残されていますが、今回はテレビアニメにも取り上げられた話を紹介します。文政5（1822）年正月、錦見の土手町（現在の岩国一丁目）に住む貞蔵という人の家で、こんな奇妙なことがありました。飼っている鶏がしきりに夜鳴きをするので、貞蔵は「これは不吉だ」と思い、その鶏を捕まえて藁を編んだ包みに入れ、首だけ出して家の前の川（錦川）に流したところ、その夜、牛野谷の井堰に流れ掛かりました。ちょうどその時、牛野谷村のある百姓の夢に一人の男が出てきて「私は土手町の貞蔵という者に飼われていた鶏です。彼の家の先祖の位牌が、私の鳥小屋の上にあります。これは彼の家が滅亡するという不吉な出来事であるため、これを告げるために夜鳴きをしたところ、かえって私を憎み川に流されてしまい、今、井堰に引つ掛かっています。助けてください」と言います。

た。翌朝、百姓がその井堰に行つてみると、本当に藁の包みの中に鶏が首だけ出して引つ掛かっていました。百姓はすぐに連れて帰り、飼い主である土手町の貞蔵の家に行つて尋ねたところ、貞蔵は「そんなことはない」と答えました。さらに問い詰めると、貞蔵は「実は先祖の位牌を集めて5枚あるのだが、念入りに年始と盆に祭つている」と言いました。それから、貞蔵が位牌を確認してみると、仏壇には4枚しかなく、1枚不足していました。そのため、鳥小屋の上を確認したところ、1枚がそこにあつたのです。貞蔵は大変驚き、この鶏をもらい受けて、その後は大切に飼いました。また、その鶏を見物するために、当時たくさんの方が訪れたそうです。

なお、この話は『岩国沿革志（怪談録追加・実事談）』や『岩邑年代記』によると、江戸時代には実話と言われているようです。



◀『岩国沿革志（怪談録追加・実事談）』…江戸時代に岩国藩士広瀬喜尚が記した『岩邑怪談録』を藤田葆が編集し、怪談話や実話を追加したもの。明治43（1910）年。この図は土手町のにわたりの挿絵。

『岩邑年代記』…岩国藩における年代記で年代順に記録されている。多くの人に書き写されているが、今回の史料は嘉永5年に三浦伝右衛門が書き写したものである。嘉永5年以降は自身が書き継いでいる。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

岩国市 人口・世帯

人口 143,324人【前月比 -126人】 男性 67,871人 女性 75,453人

世帯 66,771世帯【前月比 -36世帯】 ※外国人人口を含む（平成25年12月1日現在）

交通事故発生件数 11月分事故件数 65件（611件） 死者数 0人（7人） 傷者数 76人（733人）
※高速道路発生分を除く ※（ ）内は平成25年累計

広報テレホン 休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ 「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337